

大井実の
BOOKな話

福岡市内で書店『ブックス
キューブリック』をいとなむ
大井実さんの、本のある日
常をつれづれに。

撮影/川上信也

猫好きの読者の方へ。秋の夜長に読みたい絵本と、
秋のドライブで聴きたいジャズ。



今月は、読者の方にも多くいらつしやるであろう、猫好きのための作品をご紹介します。

まずは絵本。秋の夜長にほっと一息つきながら読むのにぴったりですね。とはいえ私自身、実はそんなに絵本を読む方ではないのですが…。でも、これだけははずせないという一冊があります。オープン時から店頭でも知らしめたことがない『よるのねこ』です。'60年代後半にアメリカの作家が描いた本で、なんとといっても絵が素晴らしい。どことなくマチスのような雰囲気、一枚一枚まるで絵画の素敵な作品を見ているようです。ページをめくるたびに広がる、一匹の猫のかわいらしい冒険の世界。その完成度の高さは、大人のための絵本と言ってもいいでしょう。今から40年以上も前の作品とは思えないほど、絵もストーリーも色褪せることなく、キュートで、いつ見ても本当に新鮮。決してメジャーな本ではありませんが、

絵本の世界にも、隠れた名作というのは少なからず存在しているもの。誰に媚びることなく、自由に気ままな猫の魅力にあらためて惹かれる作品です。

さて、アルバムは、そのタイトルもストリートな、ジミー・スミスの『ザ・キャット』。ジャケットはこれまたおしやれな黒猫のビジュアル。ジミー・スミスといえば、ジャズオルガンの絶対的な存在。オーケストラをバックにしたスリリングな曲は、路地裏を駆け抜ける猫の疾走感をイメージさせる、エネルギーで楽しいアルバムに仕上がっています。ジャズ特有のつつきにくさがないので、誰にでも聴きやすく、耳ざわりがいいところもおすすめのポイント。たとえて言うなら、元氣いっぱいの人なつこい猫のような音楽といったイメージでしょうか。ジャズオルガンの代表作として、これからの季節なら秋のドライブのBGMにも楽しい、永遠の名作です。

『よるのねこ』
ダーロフ・イブカー/大日本
図書 / 1,365円



『THE CAT』
ジミー・スミス/ユニバー
サルミュージック / 4,500
円

